
最後の恋...

HIRO.S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の恋…。

【Nコード】

N4617D

【作者名】

HIRO・S

【あらすじ】

駅であなたに一目惚れっ！でもね…あなたで最後…。私…。

（前書き）

叶わない恋のセカンドストーリー。優里の視点で書きました。女性
目線は難しいです。

『お前なんて死ね』

『うざい…』

『消えろ…』

私が、いったい何をしたっていうのだろう？

いつもそんな事ばかり考えている…。

私は中学に入ってから、ずっといじめられてきた。

社会人になれば、いじめなんてなくなると思ってたのに…なくならなかった。

もちろん、理由なんて分かるはずもなく…。

そんな事もあって、私は自分の意思をなくしてしまったの…。

何を言われたって…ずっと我慢して生きてきた。

言いたい事もやりたい事もたくさんあったのに…。

でもね、ある日あなたに出会ったんだよ。

あなたは、とても優しくそうな人だったよ。一目でそう感じた。

私の存在をあなたは知っていたのかな…？

毎日、同じ時間に電車に乗ってたんだよ。

あなたを初めて見かけた時、あなたは駅の売店で、順番を抜かされてたね…。

だけど、その人に何も言わなかったよね。

きっと私も何も言わなかったよ。ううん…きつと言えなかった…。

もしかして、あなたもずっと我慢して生きてきたのかな…？。

ごめんなさい…。

私…あなたに恋しちゃったみたい。

会社に行くのは嫌だけど、電車であなたに会えるのが…唯一の幸

せだった。

でもね、もう耐えられないよ…。

今の会社を辞めたって、また同じ事の繰り返しだと思うから…。
だから決めたんだ…。

一日だけ、自分に素直に生きてみようって。

一日だけでいい…。

だってもう疲れたよ…。

…

「今日は遅いな…」

今日は素直に生きるって決めた日…私はいつもより早く駅に向かった。

あなたに気持ちを伝えたくて…。

それなのに、あなたは現れない…。

どうして…？ 神様お願い…意地悪しないで…。

すると、あなたは慌てた様子で走ってきた。

どうしたの？ 朝寝坊かな…？

電車はあなたを置いて進んでいった。

そして、あなたと目が合った。

恥ずかしそうに微笑んでるあなたの事を、私は愛しく思えた。

「遅刻ですね？」

私はあなたに歩み寄って、声をかけてみた。

すぐドキドキしてたんだよ…。気づかれてたのかな…？

初めて聞くあなたの声は…とても優しい声だった。想像したとおり…。

あなたは、私の言葉にすごく驚いていたね。
本当はね…すごく怖かった…。変な女だと思われそうで…嫌われ
ちやいそうで…。

「いいよ…」

あなたは、私の言葉を受け入れてくれたね。すごく嬉しかった。
ありがとう…。

「名前は？僕は神咲春人」

そういう名前だったんだね…。あなたは『春人でいいよ』そう言
ってくれたけど、春くんって呼ぶからねっ。

映画館に行ったね。

どうしてあの映画を選んだの？ずっと観たかった映画だったから
…ビックリしたよ。

ありがとう…。嬉しかった。

「泣いてるの？」

映画が終わると…あなたは私の顔を覗きこんできた。

「泣いてないよ…」

私、嘘ついちゃった。
でも知ってるよ…。

本当は、あなたも泣いてたよね？言わなかったけど…。

「お腹空かない？」

そう言って、あなたが知ってるお店に連れていってくれたよね。一緒にお昼ご飯食べたよね。ハンバーグ…本当に美味しそうに食べいたよね。

まるで子供のように…。

「あのぬいぐるみ、すごくかわいいね？」

私がそう言っていると、あなたは夢中で取ろうとしてくれたよね。私もチャレンジしてみたけど、ダメだった。

二人でプリクラ撮ったよね。まさか、あなたと一緒に撮れるなんて思ってた…。

二人して変な顔…。あなたといると、時間はあつという間に過ぎていく。

ずっとこのままでいたら…なんて思っちゃたりして…。

あなたと過ごす時間も…次第に少なくなっていく。

夕日も沈み、夜空には綺麗な星たちが輝きだした。

いつもより綺麗に見えたのは、隣にあなたがいたからかな…？

「携帯番号教えてくれないかな…？また会えるよね？」

本当に嬉しかったよ。でもね、もう会えない…。あなたの目…じつと見れない。

「ずっと好きでした…」

この言葉だけを伝えたかったの…。

どうしたのかな？涙が止まらない…。

いきなり…走りだして驚いたかな…？嫌われたかな…？

自分勝手だよ…？

ごめんなさい…。

私ね…昔、通ってた中学校の屋上にきてるの…。

すごく嫌いな場所…。

あなたは…今、何してるのかな…？もう寝ちゃった？

二人で撮ったプリクラ…やっぱり変な顔…。一枚くらい…真面目に撮ればよかったね？

自分が出した答えが間違ってるなんて、分かってるよ…。

私には…こんな答えしか出せなかった。

最後に春くんと一緒に過ごせて…本当によかった。

あなたからすれば、迷惑だよ…。

これからずっと…あなたの事を見続けてもいいですか…？

どんな人と幸せになるのかな…？

あなただけは…ずっと幸せでいてね。

私、今までいじめられてきたけど…その人たちを恨まないよ…。
これは自分で出した答えだから…。

バイバイ…春くん…。

さよなら…。

ありがとう…。

最後の恋…。

（後書き）

最後まで読んでくれた人ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4617d/>

最後の恋....

2011年1月20日05時11分発行